

第5回 北海道水道広域化推進プラン策定に関する検討会 開催概要

日 時 令和3年2月12日（金）10時30分から11時50分

開催方法 Web 開催

出席者（敬称略）

【構成員】

宇野 二郎	座 長	横浜市立大学国際総合科学群教授
構口 学	構成員	木古内町建設水道課長
谷川 竜也	構成員	谷川竜也公認会計士事務所代表
松井 佳彦	構成員	北海道大学大学院工学研究院教授
最上屋 知弘	構成員	札幌市水道局総務部企画課長
横山 浩丈	構成員	中空知広域水道企業団企業局営業課長

【オブザーバー】

海藤 孝夫	総合政策部地域行政局行政連携課主幹
安藤 直樹	総合政策部地域行政局行政連携課連携係長
牛島 健	北海道立総合研究機構建築研究本部企画調整部企画課主査
長坂 晶子	北海道立総合研究機構森林研究部林業試験場森林環境部研究主幹
森野 祐助	北海道立総合研究機構産業技術環境本部エネルギー環境地質研究所 資源環境部主査

事務局（環境生活部環境局環境政策課）

松田室長、山内主幹、早川主幹、中村係長、鹿又主査、井上主査、宮木主任

議 題

- 1 ソフト連携シミュレーションの結果（案）について
資料1 令和2年度水道広域化推進プラン策定に係るソフト連携シミュレーション
業務中間報告書
- 2 ハード連携シミュレーション（案）などについて
資料2 ハード連携シミュレーション（案）
資料3 水道広域化推進プランの策定に向けたスケジュール（案）

議 事

- 1 開会
あいさつ 松田室長
- 2 議題
(1) ソフト連携シミュレーションの結果（案）について
資料1に基づき、事務局から説明

<構口構成員>

(水道料金関係事務)

- ・窓口の集約化は、地域住民サービス水準とのバランスを検討していくのが課題。

(水道料金関係事務) (水道メーターの購入)

- ・スマートメーターは、需要があれば、ある程度安価になってくると考えられるので注視していきたい。

(水道施設台帳のシステム導入) (各種計画の策定)

- ・小さい自治体では共同化のメリットが高いと思っているので期待したい。

(指定給水装置工事事業者登録・更新)

- ・重複作業がなくなるのであればやっていくべきと考える。

<谷川構成員>

(共通)

- ・専門的な言葉が出てくるので、最後に用語解説ページをつけるべき。
- ・実地ケースシミュレーションとモデルケースシミュレーションとの違いについて記載すべき。

(指定給水装置工事事業者登録・更新)

- ・事業者の利便性の観点から、登録等の共同化を一般会計部局でも行ってもらいたい。

<松井構成員>

(共通)

- ・ソフト連携の実施にあたり、市町村で発注の仕方やシステムが異なるものの統一化やすり合わせが必要。スケールメリットだけでなく、このようなハードルについても明示すべき。

<最上屋構成員>

(水道施設の維持管理)

- ・今回算出した共同化後の費用と企業の見積りの差についてその要因等を明記すべき。

<横山構成員>

(水道施設の維持管理)

- ・削減効果について自治体が一貫性を持って考えられるようなデータの工夫が必要であると考える。

<宇野座長>

(共通)

- ・プランには具体的な取組地域まで盛り込めたら良い。例えば、取組をしてみたい自治体を募ることなどを検討してほしい。

(管路DB)

- ・北海道の規模にあったようなDBの在り方を、もう少し検討していただきたい。

(遠方監視制御システム)

- ・遠方監視制御システムにいくつかのDX技術を組み合わせた形での共同化を検討いただきたい。

(2) ハード連携シミュレーション（案）及びスケジュールについて

資料2及び資料3に基づき事務局から説明

<構口構成員>

(共通)

- ・今後、25保健所地域からの細分化の方向性も示していただきたい。
- ・令和50年度の北海道の水道事業の姿をどうするか非常に難しいとは思いますが、今後は色々な議論をまとめて、道の立場でどのように進めてくのか、示していく必要があるのではないかとと思う。

<谷川構成員>

(共通)

- ・シミュレーションでは、更新費に加え、年度の維持管理費も考慮して算定すべき。

<松井構成員>

(水源活用)

- ・費用の最適化ということでは非常に良いと思うが、維持管理の共同化やデジタルハード連携などの広域連携という枠組の中での位置づけを明確にすべき。

<最上屋構成員>

(共通)

- ・連携地域の組み合わせについて、可能であれば複数案ある方が良い。仮にワンパターンでも、それを選定した観点などを示すべき。

(浄水場集約) (水源活用)

- ・浄水場ごとに浄水場集約ケースと水源活用ケースの両面でシミュレーションをしていく必要があると考える。

<横山構成員>

(共通)

- ・共同化するにあたり、協議の進め方や議会・住民への説明など非常に大切な部分があるので、コーディネーターとしての道の役割を大きく果たしていただきたい。

<宇野座長>

(水源活用)

- ・水源活用ケースは、広域の枠組みの中で、水道の持続可能な運営に向けて水資源を最大限活用するための技術的な支援策として考えられるのではないかと。また、水源活用をデジタルハード連携や管理の共同化と組み合わせれば、広域の新しい水道システムとして検討する意義がある。

3 閉会